



おかげさまで70周年

「つつむ」をつくる

パッケージのフルカスタマイズ



PACKAGE ART

パッケージアート株式会社

PACKAGE ART 通信

2024年6月11日号

「つつむ」をつくる

プロフェッショナルとは何かについて考えています。ひとつ言えることは、それはゴールではないということです。これこれができるようになったら「一人前」とは言えると思います。しかし、「一人前」になることがプロフェッショナルなのではなく、それはスタートに過ぎない。一流と言われている人たちが話していると「きりがないこと」に向かっているという共通点があるように思います。その姿勢を継続できるのが、プロフェッショナルなのかもしれません。

今回は、ギターメーカー界では知らない人はいないFreedom Custom Guitar Research様を訪問し、インタビューを行なってきました。弊社の大事なお客さまです。代表の深野さんのお話を伺い、プロフェッショナルの深いあり方を教えられたように思います。

記事にしていますので、ぜひご一読を。2回シリーズの1回目です。

細部にわたるこだわりと合理性



F.C.G.Rは、国内最高峰のギター工房としてプロミュージシャンから絶大な支持を得ています。2018年には世界最大規模の楽器ショー「NAMM Show」にて、7,000以上ものブランドの中から選ばれる「Best in Show」のWINNERとして表彰されています。

大型工場での大量生産品ではなく、職人が1本ずつ楽器をハンドメイドする「工房系」メーカーとして、その品質と細部へのこだわりが評価されています。

今回のインタビューは、パッケージアートスタッフであり、20代の頃にロック&ポップバンドのベーシストとして活動経験がある桂野がインタビュアーを務め、深野さんからものづくりに関する貴重なお話を伺いました。

詳細は、[こちら](#)から。



事例紹介：コーティング剤用パッケージ

株式会社 Car Reuse（カーリユース）様



東京都町田市で営業されている株式会社Car Reuse（カーリユース）様からのご依頼です。緩衝材や基本的な材質の種類は共通化しつつ、箱は商品特性のイメージを踏まえた黒（ハード）と白（ソフト）で、紙色・印刷色などを変えています。また、コーティングを塗布するウレタンは、緩衝材の材質とは異なるものになっています

こちらの[記事](#)をご覧ください。



パッケージ製作とブランディング戦略

「箱ひとつで変わる、第一印象」



パッケージとブランディングについてお話しします。適切なパッケージを選ぶことで、商品価値を引き立て、ブランドを強化することができます。年間1,000件以上のお問合せをいただいている弊社がパッケージの重要性とその選定のポイントについて詳しく解説していきます。

詳しくは、[こちら](#)から。

X（旧ツイッター）で呟いています！

ジョリー小林@パッケージアート

https://twitter.com/package_art

日々の様々な出来事やパッケージに関するあれこれを呟いています。「つつむ」つくるの思いを皆さんに届けたいです。ぜひフォローいただけるとありがたいです。

<https://packageart.co.jp>



Copyright (C) 2023 Package Art Co., Ltd.. All rights reserved.
You are receiving this email because you opted in via our website.

今までにパッケージアート株式会社とのお取引があった方々に配信しています。

連絡先
Package Art Co., Ltd.
16-5 Motogihigashi cho
Adachiku, Tokyo 123-0854
Japan